
けいおん! ~新しい物語~

諸葛勤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

けいおん！ ～新しい物語～

【Nコード】

N4326BA

【作者名】

諸葛勤

【あらすじ】

けいおんの二次作です。初めて投稿するので優しい目でみて下さい。

文がめちゃくちゃになっていたりかぶっていたりする場合はいってください。

主人公設定（前書き）

プロフィールです

主人公設定

神崎 しんざき ひろこ 大翔こいつが主人公

身長175cm 体重70キロ

使用ギターは黒のRGXA2と軽め。

【容姿】

髪は黒で長さは普通ぐらい。髪型は寝癖で変わる。顔は上の下。結構目が薄い。けいおん部では身長がずばぬけて高い。いつもイヤホンかヘッドホンを携帯している。

【性格】

かなり冷静。しかしおもしろであればさわいだり、調子に乗る。きれるとものすごく怖い。

異性に関しては自分のことは鈍感。しかし他人のことには敏感。ツツコミ役。ボケは天然で発動する。なかなか諦めが悪いがそれが裏目に出るコトが多々ある。

【身体能力・趣味】

護身術として合気道と柔道をしていた。どちらも段を持っている。しかし走るのが苦手。長距離は平均以下・短距離は100m20秒台。他は平均よりちょっと上。

ギターはコードが弾けるレベル。相对音感の持ち主。

家事能力はほぼ0。

ファッションセンスは10段階中2。
あまり興味がない。

趣味は釣り・将棋・ゲーム・探索と
アウトドアかインドアが良くわからない。特技は速読。
苦手なものは思いつかないので本文中で。

学業は得意科目が歴史・政治経済・法律・物理・化学・数学
苦手科目は地理・生物・地学・美術

主人公設定（後書き）

諸葛勤「なかなか難しいです」

大翔「（苦手なものは思いつかないので本文中で）っておい」

諸葛勤「すみません」

第一話（前書き）

主人公設定で書き忘れていたプロフィールです。

左利き

血液型はA B型

第一話

桜舞う4月

俺は今年から共学になった私立桜が丘高等学校の受験に受かった。

「大翔、起きなさい。」

「わかったよ。」

今起こしに来たのが俺の母親だ。ちなみに父親は、単身赴任中だ
さてと着替えますか。

俺は着替えて1階におりて朝食を食べていると

「本当に大丈夫なの？」
と聞いてきた。

「まあ大丈夫だと思う。」

「それならいいんだけど。」

中学時代にちょっとやんちゃだったから心配しているんだろう。

「桜が丘高校は去年まで女子高だっただろ。だから心配いらねえよ。」

俺が桜が丘高校を選んだ理由でもあった。

俺が家を出ようとするとピーンポーンとチャイムが鳴った。

でドアを開けると

「よっ大翔学校に遅れちまうぞ！」

といってくるのは俺の友達あくゆう まつなが松永 涼介りょうすけ> だ
名前が涼介なのに俗に熱血キヤラとよばれるかんじの奴だ。

「なに言っただ？今7時半だぞ、あと30分もあるじゃないか。」

そうおれの家から学校までは15分で着く。

今日は8時に登校だから、べつに遅刻するという時間帯ではない。

「えっ！本当だ何だ急がなくても良かったじゃないか。」

「時計を見間違えたただけだろ。とりあえず本当に遅刻するからいくぞ。」

「あつ待つてくれ」

とくだらないやり取りをしていると走っていかにも遅刻だって感じの子が通り過ぎていった。

「なんであの子走っているんだろう？」

「さあな案外お前と一緒に理由だったりしてな。」

いろいろ話しているうちに学校に着いた。

ちなみに合格者の表を見る限りでは男子生徒数は20人ほどだった。そのなかに俺と一緒に高校の奴は涼介だけだった。

そのあとくだらない校長の話を睡眠学習して途中で涼介におこされて始業式が終わった。

なにげない日常が2週間ほど過ぎたある日。

「うーんどうしたらいいものか。」

「どうしたんだ大翔？お前が悩み事なんて珍しいな。」

そう俺はある1枚の紙を前に苦戦していたのだ。
それは

「大翔・・・まだそれだしていなかったのか。」

そう入部用紙だ。なぜかこの高校は男子はぜったいにクラブか同好会に入らないといけないのだ。

「そういうお前はどうかんだよ」

「俺はサッカー同好会を作ったぜ！部員は今8人。」

「さすがだな、涼介。」

こいつはリーダーシップもなかなかあるから同好会をつくるなんて簡単だろう。

しかし24人中8人も捕まえるのは難しいだろうに。

「大翔はどんな部活がいいんだ？」

「特にない。」

「それじゃ消去法でいくか。サッカー同好会は？」

「走るのは無理だからパス。」

「それじゃ陸上も無理だな。剣道は？」

「剣道？なんだそれは？わからんからパス。」

「吹奏楽は？」

「トランペットみたいな楽器は吹けない。」

「は？なら他にできるのがあるのか？」

「ギターだ。」

そう気分を落ち着かせるといつかどこからもらったのでちょっとやっているのだ。

「それじゃ軽音部でいいんじゃないか？」

「軽音部？」

「そう軽音部。正式には軽音楽部。」

「違う。俺がいたいのはあるのかどうかだ。」

「あるみたいだぜ。ほらここにつてる」

というのでみてみると

「本当だあるじゃねえか。」

そして少し考える。

「よし、今日いつて見るか活動場所は・・・音楽準備室か。」
そうすると

「軽音部見に行くの？じゃあこの子と行ってくれない？」

不意に声をかけられた。

第一話（後書き）

第一話完成

大翔に声をかけた人物とは？

またこの子とは？

わかっている人が大多数だと思いますが^^

つぎも見えていってください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4326ba/>

けいおん! ～新しい物語～

2012年1月12日18時53分発行